

第四中学校・第八中学校統合委員会 要 点 記 録

第 5 回

開 催 日 時	平成31年3月5日(火) 午後6時30分～8時05分	
開 催 場 所	第四中学校 図書室	
出席者	委 員	渡辺勲、伊藤英男、西山篤臣、遠藤久子、伊藤良実、丸山尚美、成嶋伸浩、杉谷華織、佐久間利彦、下山田智恵、中田あき子、飯沼直之、中川明、吉田和代、大柴文子、和泉智乃、大槻麻里、佐藤明子、竹之内勝、遠藤純子、河村明彦、高橋昭彦、石原千鶴 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校・地域連携担当
	その他	子ども教育施設担当、パシフィックコンサルタンツ株式会社
会 議 次 第	<p>【報告】</p> <p>1 一足制導入に伴う施設整備について</p> <p>2 統合時の校舎（第四中学校）の改修工事について</p> <p>【議事】</p> <p>1 第四中学校・第八中学校統合新校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について</p> <p>2 その他</p>	

第5回 第四中学校・第八中学校統合委員会 会 議 要 旨

委員長

これより第5回学校統合委員会を開会する。傍聴希望者はいない。本日は新校舎の検討を支援していただく設計会社である、パシフィックコンサルタンツ株式会社の皆さんに出席いただいている。

1 報 告

報告（1）一足制導入に伴う施設整備について

委員長

議事に入る前に、事務局から報告がある。「一足制導入に伴う施設整備について」、事務局の説明を求める。

事務局

資料1「一足制の導入に伴う施設整備について」を説明する。一足制は、教育委員会の議論に

において、新校舎に備えるべき教育環境の一つとして提起されてきた。校舎や校庭を一体的に使用していく新たな教育環境として、上履きを使用しない一足制での運用による校舎整備を行っていく。

一足制により、誰もが支障なく安全に利用できるユニバーサルデザインの校舎が実現するほか、靴の履き替えの時間や場所がとられないことから、校舎・校庭、その他併設施設の一体的活用が可能となり、教育環境としての利便性、効率性の向上や昇降口などの混雑を緩和し、事故、トラブルの回避につながるほか、災害時においても避難誘導を安全に行うことができるなどの効果を見込んでいる。また、校庭内に砂塵を持ち込むことのないよう、校庭の表層部は人工芝等の材質で整備する。

教育委員会では一足制を導入した他区の学校の視察を行い、様々な効果が確認できたため、今後改築を行う学校については一足制の導入を決定した。資料には、実際に視察に行った港区白金の丘学園、台東区台東育英小学校の写真を載せている。

2頁目の一足制導入によるメリットを説明する。一つ目は、どこからでも出入りできる利便性である。二つ目は、昇降口の混雑を緩和する安全性、三つ目は移動時間の短縮による効率性である。付加的要素として、省スペース化による他用途の活用もできる。その他の効果・メリットは、校庭を人工芝で整備することにより、例えば水たまり等がなくなり、校庭の使用制限が無くなるという点もある。また、ユニバーサルデザインの対応も可能となる。

次に、一足制によるデメリットを説明する。まず、校庭の材質が限られ、その材質によっては使用に適さない球技がある。また、下足・上履きの履き替えという日本の伝統・文化の継承への懸念が、これまでの説明の中で出た意見である。また、雨天等により濡れてしまった靴の履き替えがある。想定案としては、エントランスで代用靴に履き替え、教室に入室することを考えている。また、教室で代用靴もしくは体育館履きに履き替えるなどの運用の工夫により、対応が可能と考えているが、今後学校と運用について検討をさらに進めていきたい。

資料1-2に、一足制導入に伴うQ&Aを載せている。1番から12番までの項目があるが、例えば2番目の都内で導入されている学校については、先ほど申し上げた白金の丘学園ほか、他区でも事例がある。また三つ目の、区内で既に開校した学校で一足制を導入している学校があるのかという質問について回答する。統合後、新校舎になったときから一足制導入になるので、小学校は2020年度の夏、新校舎共用開始予定のみなみの小学校と美鳩小学校が最初になる。中学校は2021年度の中野東中学校が最初の導入事例となる。

また、雨の日は濡れた靴で1日過ごすのか、また濡れることによって転倒するなどの事故が心配であるという意見もいただいている。雨天時の対策については、滑らない床材質を使用するなど含めた施設面での対策と、体育館履きを校内履きとして一時使用するなど、利用面でのルール策定の両面を今後も検討していく。生徒や保護者の不安がなくなるよう、対応は引き続き行っていきたい。

多く出た意見だが、体育館では体育館履きを履くことになるが、体育館で全校集会を行う時、靴をどこに置くのかという質問もあった。今後学校と運用について検討を進めていくという考えだが、例えば体育館履きへの履き替えを教室内で行うということも想定している。

他の質問については記載のとおりなので、お読み取りいただきたい。

委員長

今の説明について意見・質問はあるか。

委員

雨天時の対応について、エントランスで代用靴に履き替えるという案が出ているが、この靴は区で用意してもらえるのか。それともこれまでの上履きのように、生徒が自分で持ってくるのか。

事務局

代用靴を使用するかどうかについても、今後運用を含めて検討していく。使用することになれば、区で用意はしない。

委員

上履きと変わらなさそうだ。

委員

視察の写真があるが、いつ頃行ったのか。

事務局

白金の丘学園は2017年3月である。教育委員会で一足制の導入を決めたので、教育長を含めて他の区の事例を見に行った。育英小学校は自分には行けなかったが、3月以降に行った。

委員

教育委員会で一足制を決めて、その後視察を行ったということか。

事務局

そうである。

委員

自分は去年の夏、一足制の港区立お台場学園小中学校に仕事の関係で行った。雨の日だったので傘を持って校内を歩き回ったが、今は材質が良いのだろう、濡れたものを持っていても何の支障も無かった。校長と副校長に何か問題があるかを聞いたが、全く支障はないと言っており、意外と便利だと思った。大学や職場は一足制であり、入り口で履き替えるということは無いが、日常生活において一足制で困ったことは無い。そもそも、学校で下履きと上履きの二足制にこだわる科学的根拠は無いのではないかとも思う。

委員長

一足制にした場合、体育館では靴を履き替えるということだが、体育館も同じ靴で使えるようにした方が、効率が良いのではないか。

事務局

今、体育館の床のフローリング材の材質上、下足に対応していないのと、ワックスをかける関係から、体育館履きの使用を考えている。

委員

お台場学園を見に行った時、自分も体育館に革靴で入ろうとしたら止められた。どのような靴底の靴を生徒が履いてくるのか分からず、床を傷つけてしまうかもしれないので、体育館だけは指定の体育館履きがあると先生は話していた。

委員

基本構想・基本計画を見ると、体育館履きを置く場所が全く無い。

事務局

Q&Aの8番にあるように、体育館で全校集会をする時は教室で履き替えることを想定している。

委員

教室で履き替えるとしても、置き場所は無さそうだが。

事務局

教室で特定のスペースを用意して履き替えることは考えていない。

委員

そうであれば、最初から昇降口で履き替えても同じなのではないか。

事務局

体育館の床を保護し、良い状態で体育館を使ってもらうために体育館履きの使用を考えている。一足制については、まだ中野区で導入例がないので、どの統合委員会でも、不安な声が出ている。実施例が出てくれば実際の評価が見えてくるが、それまでの間は丁寧に説明をしていきたい。実際にやってみての工夫も必要になるかと思うが、今まで我々教育委員会が他区の事例を見た範囲では、大きな支障が起こっているという声は聞こえてこない。可能な限り安全策を取りながら、説明を丁寧に、開校後に出てきた支障、難しさについては学校と相談しながら、改善、改良をして進めていきたい。

今の段階で疑問や不安な部分があれば、ぜひお寄せいただきたい。他区でどうしているのか、

他区でも想定がなければ対応策を事前に考えておきたいと思う。他の統合委員会でも今後、同じ内容の説明をし、意見をいただきたい。

委員長

百聞は一見に如かずで、実際に見に行けば議論するよりも早いのではないか。

委員

中野中学校で一足制を試験的に期間を設けて導入してみてもどうか。

事務局

中野中学校は一足制に対応した学校ではなく、校庭も砂と人工芝を使っている。

委員

それも含めて2、3か月やってみて、見えてきた問題点について議論してはどうか。

委員

そもそもハードの作りが違うので、一足制に対応していない学校でやってもあまり意味がないと思う。実際に一足制で運営している学校を見た方が良い。

事務局

人工芝と床材も一足制に適した素材を採用するので、おっしゃるとおりの話である。統合新校をつくる動きが複数ある中で、全ての学校の統合委員会の委員に該当の学校を見学させてもらうのは厳しい。

委員

全員が行く必要は無く、例えば、委員長と副委員長だけでも良いと思う。

事務局

実際に目にしてもらった方が不安や疑問も払拭できると思うので、そのような機会をつくる方向で検討したい。

委員

先生の言うことをなかなか聞かない1年生のいる小学校で、雨の日はどうしているのか等、参考になることがあると思う。

委員

集会をどうするかという問題がある。広さが必要になるが、エントランスのような所で集会を行えたら理想である。

委員

体育館履きを設定することは構わないが、設定する以上、置き場所を必ず確保してほしい。今計画が動いている中学校ではまだ置き場所が想定されていない。

委員

ロッカーを大きくして、下足入れも兼ねたものにしてほしい。教科書もたくさん入り、教室の広さも確保できればありがたい。

委員

視察先の学校では体育館履きはどのような扱いをしていたのか。教室の後ろのロッカーに入れていたのか、袋に入れてぶら下げているのか。また、履き替えた後の下足は足元に置いているのか。

事務局

自分が行った白金の丘学園では、体育館履きを使用していた。体育館の入り口で脱いで入っていた。ロッカーは様々な用途を考えて大きくするし、体育館履きを置く場所は必要だと思うので、設計していく中でどのような形が良いのか、検討していきたい。

委員

自分の息子が一足制の学校に通っているが、不自由さは全く感じないし、むしろ保護者としてはメリットが大きい。上履きを洗う必要がないし、履き替えの手間が無いのでスムーズに出入りができる。保護者会では多くの保護者が集まり、待つのが大変だが、統合すればさらに保護者の数も増えるだろう。一方で、娘の学校は二足制だったが、保護者が集まる時はいつも先生が段ボ

ールいっばいのスリッパとビニール袋を用意しており、大変そうだと思っていた。こうした学校の手間も省けるだろう。実際に学校はどのように思っているのか、意見を伺いたい。

委員

段ボールとスリッパを用意するのは、手間かそうでないかと言えば手間である。第四中学校では、改修で体育館のフローリングを綺麗にしてもらってからは、少しでも傷がつかないように考えながら使っている。専用の体育館履きは、いろいろな競技をする上で必要だと感じている。今は上履きを体育館履きとして使っているが、正直体育館のフローリングを傷つけているだろうなと実感はある。

一足制の高校でも、逆に儀式的な行事等でイスを入れたり、外履きで行動したりすることが多い時はシートを敷く。中野区の中学校ではシートを敷いていないが、フローリングが傷ついてしまうだろう。保護者会時のスリッパの出し入れの手間と言うよりも、体育館のフローリングの保護という視点からすれば、体育館履きを用意することが大切だ。そもそも体育館は集会場所ではなく、屋内の運動場であるので、専用の体育館履きを履くことが、子ども達の体力向上にも寄与するし、今後の教育に求められるのではないか。ただ、通学靴、運動履き、体育館履きの3足になったら大変だろうと思うので、一足制のメリットは学校としても感じる部分もある。

委員

現状としては、上履きを体育館で使っているのが、二足制ということになる。自分が教諭になった頃は上履きと体育館が区別された三足制だった。子どもたちの安全のためには、正しい靴を履いて利用することは大切だ。鷺宮体育館に外履きで入ることは無いように、社会的にそうなっているので、体育館履きは必要だと思う。体育館履きを学校として指定するのか、各自で自由なものを用意するのかは今後相談すれば良いと思うが、置く場所は確保したい。合唱コンクール等では保護者も来るので、人数が普段の2、3倍に増える。各自で袋を持参してもらって運用が考えられるが、袋を忘れる人がいたときの置き場所をどうするのか、また、体育館フロアで履き替えさせたくないという思いがある。今回の基本構想・基本計画を見ると、武道場と体育館が一体化されていないので、両方に靴置場が必要になり、その分スペースを取ってしまう。また、全校集会時は教室で履き替えることも仕方ないと思うが、体育館履きの収納スペースとして廊下に大きなロッカーを用意するのか、靴箱だけなのか、そうしたことも含めて相談しながら進めていきたい。

報告（2）統合時の校舎（第四中学校）の改修工事について

委員長

「統合時の校舎（第四中学校）の改修工事について」、事務局の説明を求める。

事務局

統合時の校舎である第四中学校の改修工事について、資料2をもとに説明する。第四中学校と第八中学校の統合新校の校舎として2021年度に使用する第四中学校については、統合新校開校に向けた改修工事を行う。現段階で想定している工事の見込みを説明する。

まず、改修工事の時期は、2019年度及び2020年度を予定している。それぞれの期間については、7月から9月の夏期休業期間を中心に行う。統合新校として統合後の生徒数や学級数に対応した教室の整備を初め、生徒が安全で安心して学校生活を送れるよう、必要な改修を行う。

まず、教室等の整理について、普通教室の確保のため、現在8学級の普通教室を、16学級を確保する工事を行う。特別支援学級については、現在第四中学校に設置されている特別支援学級の作業室を整備する。また、第二技術室を少人数教室、用具室を少人数教室など、機能の変更に伴う改修を行う。

給食室の改修について、統合新校として統合後の生徒数や教職員数に対応した食数を確保するため、給食室の必要な改修を行う。調理機器の増設並びに更新を行い、それに伴う諸室内のレイアウト変更やダクト等の整備を2020年度の夏期休業期間中に行う。

施設性能を向上させるための改修として、例えば武道場の内装改修、また階段等の床改修、渡り廊下及び南棟の一部の外壁及び、屋上の防水改修などを行う。

カラー刷りの図面は、2019年度、2020年度に行う改修工事の予定箇所を色分けしたものである。

委員

補足として、第四中学校の校舎は2019年度は4階を除いてほぼ改修に入ると思うとイメージしやすいと思う。4階と武道場と給食室以外である。2020年度にはそこも含めて改修する。2019年度と2020年度の夏に校舎改修が入ることについては、2月16日の新入生説明会で説明した。また、現在の1年生と2年生が該当する学年になるので、3月8日に全校生徒の保護者に対して説明しようと思う。あわせて新年度になったら、施設の担当者に来てもらい、保護者に説明してもらおうという流れである。

委員長

今の説明について意見、質問はあるか。

委員

改修工事の予算はどのくらいなのか。

事務局

手元に資料がないのでこの場では確認できない。

委員長

次回説明してもらえるか。

事務局

次回報告する。

委員

給食室の改修工事期間が9月に入りこんで弁当持参になる場合は、その年の4月の保護者会では保護者皆に周知してほしい。間際の7月頃になって弁当持参と知らされたら迷惑がかかる。

委員

そのようなことのないように両校から教育委員会に要望している。改修工事期間が延びることは学校としては想定していない。今いる生徒の教育活動に影響が及ぶような改修は絶対にしてほしくない。

事務局

夏季休業期間に終わらせるように進めているので、弁当対応は考えていない。

2 議 事

議事（1）第四中学校・第八中学校統合新校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について

委員長

議事（1）「第四中学校・第八中学校統合新校校舎等整備基本構想・基本計画（案）について」、事務局の説明を求める。

■資料「第四中学校・第八中学校統合新校校舎等整備基本構想・基本計画（案）」を、教育委員会事務局副参事（子ども教育施設担当）から説明

※詳細は、中野区教育委員会ホームページ「第四中学校・第八中学校統合新校校舎等の整備について」を参照。

https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/655000/d026735_d/fil/yonhatikihonkou_souan.pdf

事務局

続いて資料3について、2月11日と17日に開催した意見交換会で寄せられた主な質問、意見について説明する。

一つ目として、体育館はどのような利用を想定しており、また教室から体育館へ移動するときは何を履くのかという意見があった。体育館では体育館履きを利用することを想定しており、一足制に伴う運用は学校の意見も聞きながら、引き続き検討、調整をしていく。

二つ目として、学校は避難所となるが、工事等に伴い避難場所として利用できない期間が発生する。その際はしっかりと地域に周知してもらいたいという意見があった。防災分野と連携して避難所等の変更については、周知を行っていく。

三つ目として、会議室についても、地域住民が利用できるよう体育館のある校舎棟を開放エリアとして、学校との動線も区画した上で整備してほしいという意見もあった。会議室を開放することについては、防犯、セキュリティ、運用等から想定していない。

四つ目として、体育館や音楽室の防音対策に関する質問があった。体育館や音楽室については、音漏れに対する対策を講じていく。また、体育館と全ての普通教室には冷暖房設備を完備する。

五つ目として、現在の美鳩小学校にある防災井戸を新校舎でも活用してもらいたいという意見もあった。現在の場所から移動する可能性があるが、防災井戸については新校舎でも整備をしていく。

六つ目として、施設整備においては今後、近隣住民とも調整が必要だが、近隣住民の説明などは予定しているのかという質問があった。今回の意見交換会のほか、基本設計に伴う説明会や、解体や新築工事に伴う説明会を行っていく予定である。

委員長

今の説明について、意見・質問はあるか。

委員

以前、学校から体育館はバレーボールコート2面程ほしいという話があったが、やはり難しそうか。図面を見ると今の美鳩小学校と同じサイズに見えるが、中学生は体も大きく、統合して生徒数が増えるので、設計を工夫してもう少し広く出来ないかと思った。

事務局

2面取れるような大きさにしている。

委員

面図ではほぼ床面積が同じに見えるが、取れるのか。

事務局

少し広がっているので取れる。

委員

基本構想・基本計画の（案）が取れるのはいつなのか。

事務局

皆様の意見を意見交換会や統合委員会で聞き、それを踏まえて修正して、3月末の策定を目指している。その時に（案）が取れる。

委員

どこかの議決を経てとれるのか。

事務局

議決は要らない。今後、その基本構想・基本計画を基に基本設計を進めていく。今までは校舎の配置や形状を協議してきたが、基本設計では中の詳細を詰める。それは基本設計（案）として説明会を設けて区民の皆様に説明をする。

委員

何かあればこの場で言わないとそのまま進んでしまうということか。

事務局

意見は言ってもらった方が良い。

委員

屋上に上がる非常階段はあるのか。

事務局

屋内階段も含めて各教室からの二方向避難をとっているのので、全ての階段が非常時、避難時に使える階段になる。バルコニーについている階段は、一足制という部分もあるので、実際に運用上、管理面からもこれから考える必要があると思う。例えば、教室からバルコニーを介して外に出たり、運動会のときに2階のバルコニーも観覧スペースとして使えたり、いろいろな工夫を想定し、計画している。屋上へは上がれるが、設備や太陽光発電があるので、実際に屋上に活動に使えるスペースを作れるかどうかは今後設計していく話になる。基本的に設備機器は全て屋上に設置するし高さ制限があるので、なかなか手すりも広く作れない。屋上利用は必ずしもできるというものではない。

委員

具体的な構想の中で出てきているバルコニーはどのようなものなのか。例えば、教室からバルコニーへ出られるようにするならば、教室の窓は天井から床まで全部ガラスになっているのか。

事務局

バルコニー付きの設計の他の小学校では、例えば上に窓がついて下は壁になっている腰窓にするのか、出入口の所は掃出し窓にするのか、いろいろと考え方はあると思っている。また、管理用の扉を付けるかどうかは学校の意見も聞く必要があると思うが、普通教室からすぐに出入りできるように一部掃出しの扉を付けておくといった一足制ならではの部分も踏まえて活用方法を考えていく。全部掃出しにすると、生徒が授業中に外を見て気が散ってしまうということも考慮しながら、どのような形の窓にするかは考えていく。

委員

2階と3階にバルコニーがあるが、つくりは同じなのか。

事務局

そうである。落下防止に手すりを設ける。

委員

バルコニーから屋上へ行けないようにした方が良いと思う。

事務局

校庭から2階へはバルコニーの先端部分に階段をつけているが、安全面から、校庭から3階へ上がる想定はしていない。屋上利用については、ほとんど機械設備を置く所になり、管理用の階段になると思うので、簡単に人が通れないような扉で区画するなど、管理方法を検討していく。

委員

3階平面図と屋上平面図でバルコニーの左側の形状が違うが、3階はバルコニーに階段をつけないということなので、屋上平面図の左側の階段も本来無いということか。

事務局

俯瞰図なので、2階のバルコニー部分に重なっている絵になっているが、本来は描かれているべきひさしの部分の線が消えているので誤解を与える図になっている。

委員長

体育館の高さは3階までの高さなのか。

事務局

新しい学校については体育館の天井高は、体育館の床面から7m以上を想定している。

委員長

天井の厚みは別にして、空間が7mということか。

委員

7mというのはイメージがわからないと思うが、第八中学校や第四中学校の体育館、小学校の体育館と比較してどうなのかという比較をした方が良いかもしれない。個人的にはバドミントンをしたら羽が届いてしまうイメージだが。

事務局

現在の美鳩小学校の天井の高さが大体 5.9mから 6.7m程である。

委員

天井から下がっている照明部分も含んだ高さなのか。

委員

第二中学校は天井が高い。あれくらいなのか。

委員

第二中学校はそもそも作りが違う。

委員長

3階の高さまでないのであれば、もう少し高さを増やせるのか。

事務局

屋上を入れると3階までの高さになる。可能な限り高さを取れるようにしたい。

委員

俯瞰図しか見ていないが、横から見た場合、キャットウォークや観覧場所の想定はどのように考えているのか。

事務局

メンテナンス用のキャットウォークのようなスペースは設ける。詳細設計は基本設計のときに示す。今は吹き抜けのような形で分かりづらいが、もっと細かな絵にして示せると思う。また今は平面図だけだが、外側については立面図もあわせてつくっていくので、全体のボリューム感も話せると思う。

委員

その基本設計の説明を受ける時に、まだ意見を出しても吸収してもらえる時間的余裕はあるのか。

事務局

配置のような大きな部分については今意見をもらいたい。細かな微調整は基本設計・実施設計のときにもできるが、大きな部分は今後の進め方の土台となるので今出してほしい。

委員

出入口は何カ所用意しているのか。一斉に生徒がスムーズに出入りできるように大きさも含めて考えてほしい。

委員

国では、官庁施設をつくる時、新営一般庁舎面積算定基準が国土交通省によって設けられているが、学校をつくる時はそうした基準はないのか。そもそもそうした基準があるならば、この議論の意味が無いのではないかと以前から思っていた。

事務局

中野区では、中野区立小中学校施設整備計画という指針で標準仕様を定めている。

委員

それは高さも含めているのか、それとも床面積だけなのか。

事務局

高さは含まず、床面積のみである。各学校によって生徒数が違うので実態に合わせて職員室を大きくしたりするが、一定の基準を確保するために標準仕様を定めている。中野区立小中学校施設整備計画の10頁に示している。

委員

今高さの議論があるが、その議論も意味はないということか。

事務局

建設場所が第一種低層住宅で10mまでの高さしか建てられないので、そうした条件も踏まえて諸室の高さは設定する。可能な限り広い空間になるよう工夫したい。

委員

今の中野中学校のように、運動会で観覧ができるような外スペースを設けてほしい。平面図を

見ると器具庫と備蓄倉庫の上が1階屋上となっているが、特に用途がないようであれば第二中学校の2階エントランスのように、体育館の利用者が使えるようなフリースペースとして活用してほしい。体育館を観覧場とするつくりの中学校はほとんどないが、新中学校ではそのようなつくりだと良い。

委員

職員室を2階に配置する理由は何かあるのか。普通に考えると1階が良いのではないかと思うが。

事務局

各学年を管理しやすく、また校庭を見渡せるようにという理由からである。

委員

実際、2階に校長室、職員室を配置する中学校は多い。

委員長

普通教室は9m×8mのサイズなのか。

事務局

9m×8mの大きさが標準となる。特別教室であれば2倍、1.5倍といった仕様にする。

委員長

音楽室が第一、第二とあるが、二つも必要なのか。

事務局

これは標準仕様なので、必ずしも二つ設けるというわけではないが、今回も中学校なので二つ設けて、いろいろな使用方法や場面に対応できるようにしている。

委員長

学校としてはどうなのか。

委員

今、第四中学校も第八中学校も1学年が2学級、3学級の規模なので一人の音楽の教師で授業編成ができていますが、5学級、6学級になった場合、授業数の関係から同時展開で音楽の授業ができると良い。音楽の授業は防音の関係から普通教室で行えないので、2クラスないと授業が回らないことが想定される。

議事(2)その他

委員長

予定していた議題は以上で終了した。次に、事務局から卒業制作の取扱いについて説明がある。

事務局

現在両校にある寄贈品等については、新校に持ち込みができないということをご承知おきいただきたい。ただし、両校の校旗、校名板、外壁の校章は新校で保管する予定である。統合委員会ニュース等で早めに周知したいと思うが、学校においても同窓会やホームページで周知してもらい、そうしたのを見たいとか写真に撮りたいという要望があれば対応をお願いしたい。

委員

若宮小学校では、閉校に際して校歌の石碑をつくるためにイベントを開催し、資金を集めて残している。現在の中野中学校に旧中央中学校の歌碑があるように、第四中学校・第八中学校の統合新校でも置き場所をつくれなのか。

事務局

若宮小学校が閉校した記念として、今の美鳩小学校の位置に歌碑を設置したいということか。

委員

そうである。

委員長

教育委員会は承諾済みなのか。

事務局

承諾事項とは引き継いでいない。検討するが、設置の可否についてこの場で回答はできない。

委員

皆から集めたお金なので、考えてもらえるとありがたい。

委員長

他に何かあるか。では、次回開催日について事務局から説明がある。

事務局

年度が変わり職員の異動があるため、年度明けに正副委員長と学校長の予定を優先して調整する。5月の中旬以降の予定だが、決まり次第通知を送る。

委員長

本日の統合委員会はこれをもって終了する。